

研究分担者 渡部 健二（大阪大学 医学部 医学科教育センター）

研究要旨 2023 年度に大阪大学医学部学生を対象とした HIV 教育プログラムを 1 年次、4 年次、6 年次で実施した。授業前後でアンケートを行い意識、理解度、意識変容の調査を行った。パンデミックも過ぎて十分なアンケート回答が得られるようになった。いずれの学年においても、HIV に感染するリスクに対する正しい理解が促進され、将来 HIV 診療に関わろうという意識変化が確認された。今後の課題は本研究を継続して研究精度を高めることである。

研究目的

抗 HIV 療法の飛躍的な進歩にも関わらず、HIV 感染者の診療は一部の拠点病院に限られている。HIV 感染者がどこの医療機関でも安心して医療が受けられるように医療界全体の整備が必要である。

本研究では、大阪大学医学部に効果的な HIV 教育プログラムを実施し、HIV に関連する知識の定着および HIV 診療に対する意識の変容を導くことを目的とする。

研究方法

大阪大学医学部学生を対象としたスパイラル方式の教育介入研究を行う。

- ・低学年の 1 年次では、啓発活動を目的として、医学の進歩が感染症を克服した経緯に関する講義を行う。
- ・中学年の 4 年次では、HIV 診療に関する最新の知識を伝授する講義を行う。
- ・高学年の 6 年次では、実際の HIV 診療における問題点を抽出する症例検討形式の演習を行う。

授業前後でアンケート調査を行い、HIV に関連する知識の定着および HIV 診療に対する意識の変容を調べる。アンケート設問の内容は、授業前にアンケートを行うと学生の意識調査としての役割を果たし、授業後に行えば理解度調査および意識変容調査となることを意図して以下 6 つの設問を設定し、全学年で同じアンケートを実施した。

設問 1. あなたは、エイズについてどのような印象を持っていますか。あてはまるものを選んでください。（複数回答可）

- ① 死に至る病である
- ② 原因不明で治療法がない
- ③ 特定の人たちにだけ関係のある病気である
- ④ どれにも当てはまらず、不治の特別な病だとは

思っていない

- ⑤ 毎日大量の薬を飲まなければならない
- ⑥ 仕事や学業など、通常の社会生活はあきらめなければならない
- ⑦ その他
- ⑧ わからない

設問 2. 未治療の HIV に感染者との行為で、HIV に感染するリスクがあるものを選んでください。（複数回答可）

- ① 握手
- ② 軽いキス
- ③ 無防備な性行為
- ④ かみそりや歯ブラシの共用
- ⑤ お風呂に一緒に入る
- ⑥ トイレの共用
- ⑦ ペットボトル飲料の回し飲み
- ⑧ 注射器の回し打ち
- ⑨ 蚊の媒介
- ⑩ 授乳

設問 3. 未治療の HIV 感染者の体液で、HIV が感染する可能性のあるものを選んでください。（複数回答可）

- ① 汗
- ② 唾液
- ③ 血液
- ④ 精液
- ⑤ 膺分泌液
- ⑥ 母乳

設問 4. 治療状況が良好な HIV 感染者との行為で、HIV に感染するリスクがあるものを選んでください。（複数回答可）

- ① 握手

- ② 食事
- ③ 性行為
- ④ 注射器の回し打ち
- ⑤ 授乳

設問 5. 大阪府で HIV の新規に感染者（および AIDS 患者）の報告数はおおよそ【 】に 1 件である。【 】内に当てはまるものを 1 つだけ 選びなさい

- ① 2 日～3 日
- ② 2 週間～3 週間
- ③ 2 ヶ月～3 ヶ月
- ④ 6 ヶ月
- ⑤ 1 年

設問 6. あなたが将来医師になったとき、HIV 感染者の診療に関わろうと思いますか。 1 つ 選びなさい。

- ① 関わりたい
- ② 少しは関わりたい
- ③ できれば関わりたくない
- ④ 関わりたくない
- ⑤ わからない

アンケートは IC ブレインズ社の Socratec SV、アンサーパッド M30 を用いて行った。回答データは匿名にて回収したが、授業前後での回答を対応させることは可能である。

（倫理面への配慮）

授業でアンケート調査を行うにあたり、研究の趣旨を説明し、研究参加に同意が得られた学生のデータを解析対象とする。文書による同意は求めない。本研究で得られる情報は、個人情報と紐づけられない。大阪大学医学部附属病院 観察研究等倫理審査委員会に研究倫理対応についての審査を依頼し、承認を得た（承認番号 22029）。

研究結果

1) 1 年次 医学序説

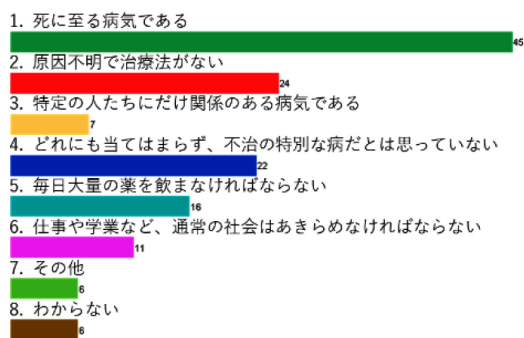
医学序説では、医学の全体像を俯瞰することを目的として、世界的な研究者や医師から最先端の研究成果や臨床医学の進歩に関する 90 分の講義をオムニバス形式で提供している。渡部健二は本科目のコーディネータを担当する。

2023 年 7 月 21 日、白阪琢磨が対面式の 90 分講義を行った。今回の講義の目的は HIV に関する啓発活動であり、医学の進歩が感染症を克服した経緯に関する解説を行うことを学習目標とした。講義タイ

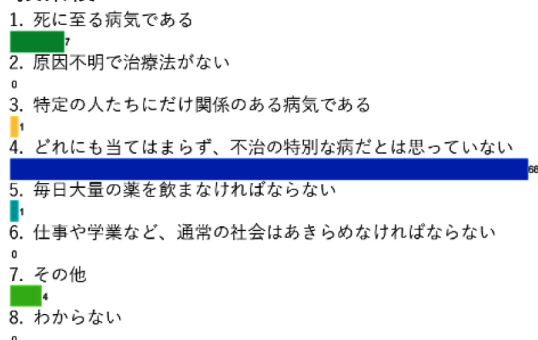
トル「医学の進歩がどう感染症を克服して来たか－HIV 感染症を例に挙げて－」のもとに、HIV 感染症・AIDS の歴史、どんな病気？、治療、予防、疫学、今後の課題について講義を行った。授業前後に共通設問 6 つによるアンケートを行った。

設問 1 あなたは、エイズについてどのような印象を持っていますか。あてはまるものを選んでください。（複数回答可）

・授業前



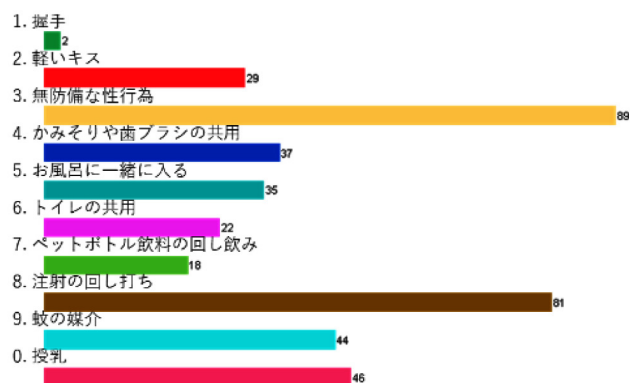
・授業後



授業前は 54% の学生が「死に至る病気である」と誤解していたが、授業後は 9.0% に改善した。授業前は正当である「どれにも当てはまらず、不治の特別な病だとは思っていない」と回答したのが 26% であったが、授業後は 87% に改善した。

設問 2 未治療の HIV 感染者との行為で、HIV に感染するリスクがあるものを選んでください。（複数回答可）

・授業前



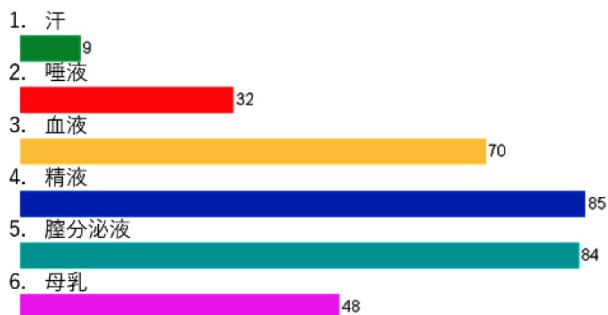
・授業後



正解「3,8,0」を回答したのは授業前が6.7%であったのに対して授業後は44%であった。

設問3 未治療のHIV感染者の体液で、HIVが感染する可能性のあるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



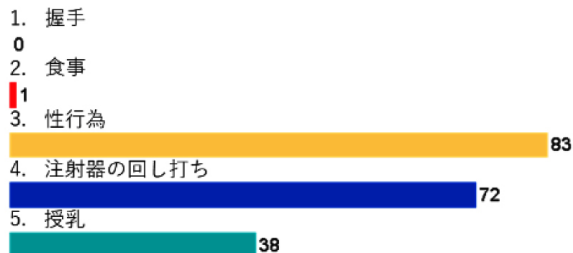
・授業後



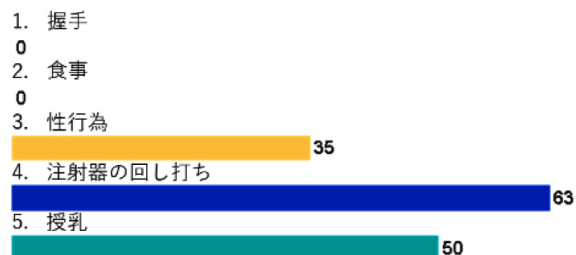
正解「3,4,5,6」を回答したのは授業前が22%であったのに対して授業後は68%であった。

設問4 治療状況が良好なHIV感染者との行為で、HIVに感染するリスクがあるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



・授業後



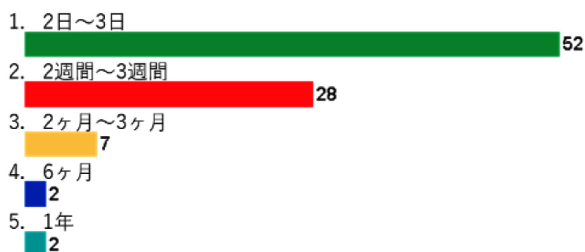
正解「4,5」を回答したのは授業前が2.2%であったのに対して授業後は27%であった。

設問5 大阪府でHIVの新規に感染者(およびAIDS患者)の報告数はおよそ【 】に1件である。【 】内に当てはまるものを1つだけ選びなさい。

・授業前



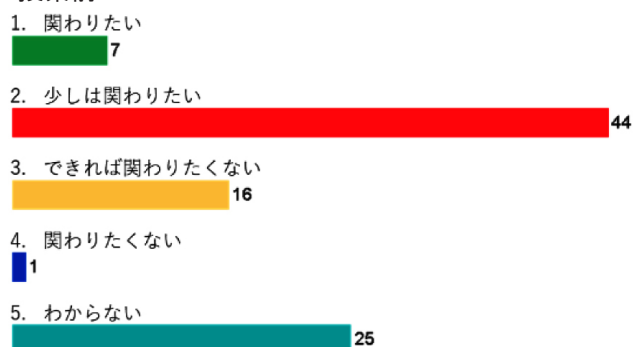
・授業後



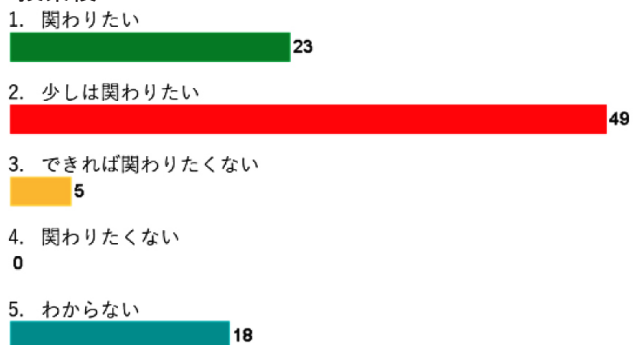
正解「1」を回答したのは授業前が47%であったのに対して授業後は55%であった。

設問 6 あなたが将来医師になったとき、HIV 感染者の診療に関わろうと思いますか。1 つ選びなさい。

・授業前



・授業後



肯定的回答「1. 関わりたい」あるいは「2. 少し関わりたい」は授業前 55%であったのに対して授業後は 76%であった。

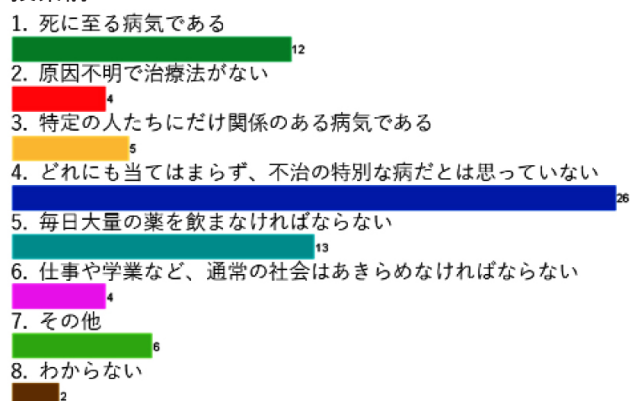
2) 4 年次 臨床導入実習

臨床導入実習では、臨床医学を一通り終了した段階で、臨床実習を開始する前の準備的な教育を行う。本授業においては、HIV 診療に関する最新の知識を伝授することを目的とした。

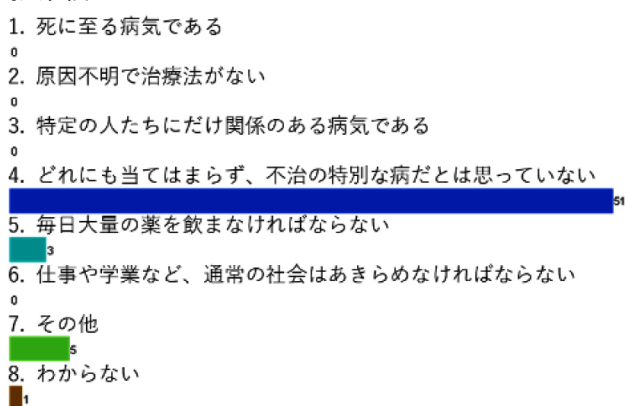
2023 年 11 月 27 日、白阪琢磨が対面式の 60 分講義を行った。2022 年度はパンデミックに伴う感染対策として学生を前半と後半に分けて授業を行ったが、2023 年度は学生を分けずに授業を行った。授業前後に共通設問 6 つによるアンケートを行った。

設問 1 あなたは、エイズについてどのような印象を持っていますか。あてはまるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



・授業後



授業前は 24%の学生が「死に至る病気である」と誤解していたが、授業後は 0%に改善した。授業前は正当である「どれにも当てはまらず、不治の特別な病だとは思っていない」と回答したのが 51%であったが、授業後は 96%に改善した。

設問 2 未治療の HIV 感染者との行為で、HIV に感染するリスクがあるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



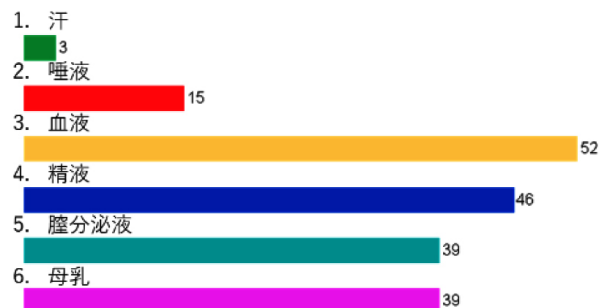
・授業後



正解「3,8,0」を回答したのは授業前が22%であったのに対して授業後は54%であった。

設問3 未治療のHIV感染者の体液で、HIVが感染する可能性のあるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



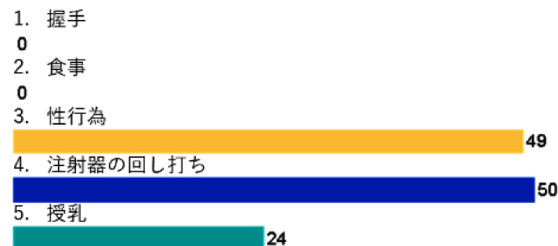
・授業後



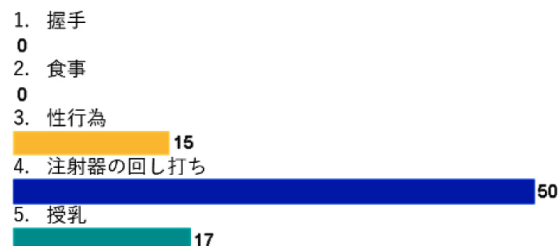
正解「3,4,5,6」を回答したのは授業前が31%であったのに対して授業後は82%であった。

設問4 治療状況が良好なHIV感染者との行為で、HIVに感染するリスクがあるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



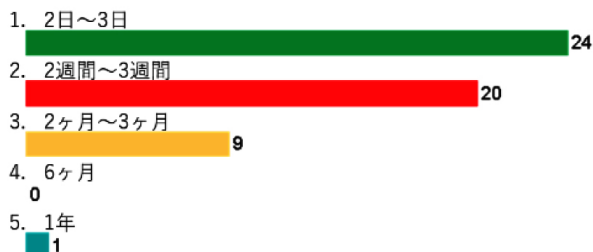
・授業後



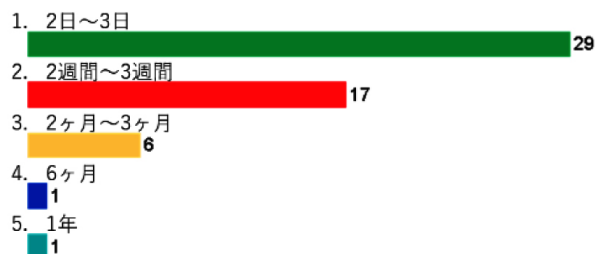
正解「4,5」を回答したのは授業前が0%であったのに対して授業後は9.1%であった。

設問5 大阪府でHIVの新規に感染者(およびAIDS患者)の報告数はおよそ【 】に1件である。【 】内に当てはまるものを1つだけ選びなさい。

・授業前



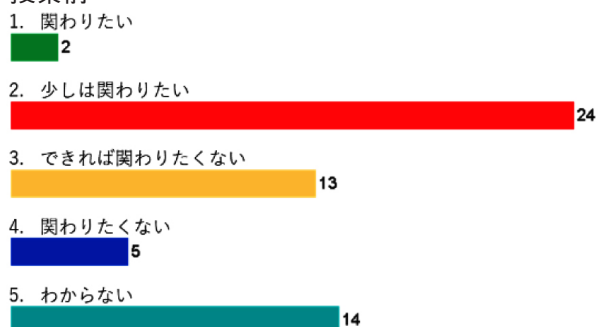
・授業後



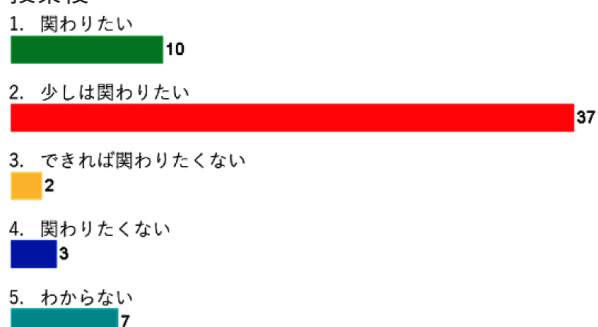
正解「1」を回答したのは授業前が44%であったのに対して授業後は54%であった。

設問6 あなたが将来医師になったとき、HIV感染者の診療に関わろうと思いますか。1つ選びなさい。

・授業前



・授業後



肯定的回答「1. 関わりたい」あるいは「2. 少し関わりたい」は授業前 45%であったのに対して授業後は 80%であった。

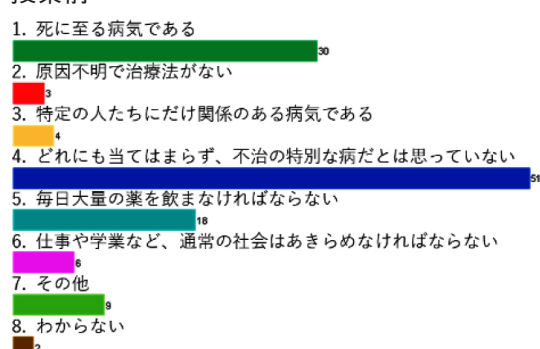
3) 6 年次 臨床医学特論

臨床医学特論は、臨床実習を経験中の最終学年学生を対象に、通常の講義では扱われない発展的・実践的内容を取り扱う。本授業においては、HIV 診療における実践的な講義の後に、症例検討形式の演習を行うことで、診療における問題点を抽出することを目的とした。

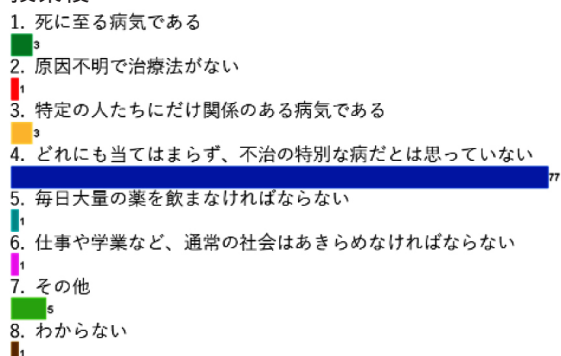
2023 年 7 月 7 日、白阪琢磨が対面式の 120 分授業を行った。2022 年度はパンデミックに伴う感染対策として学生を前半と後半に分けて授業を行ったが、2023 年度は学生を分けずに授業を行った。最初に「症例検討：HIV 陽性者を診る」という題目の元、HIV 感染症の基礎知識、HIV 感染症/AIDS の診断、抗 HIV 治療の進歩、抗 HIV 療法の実践、医療機関における HIV 感染対策の原則、HIV 感染症の疫学に関する講義を行った。続いて、症例検討をグループ作業で行い、発表と解説を行った。授業前後に共通設問 6 つによるアンケートを行った。なお、この学年は 2021 年度の 4 年次臨床導入実習で白阪から HIV に関する講義を受けている。

設問1 あなたは、エイズについてどのような印象を持っていますか。あてはまるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



・授業後



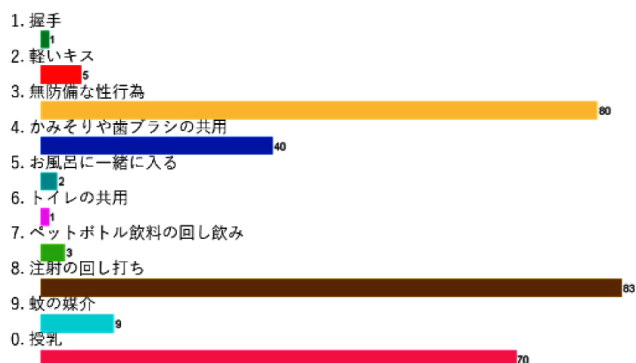
授業前は 35% の学生が「死に至る病気である」と誤解していたが、授業後は 3.7% に改善した。授業前は正当である「どれにも当てはまらず、不治の特別な病だとは思っていない」と回答したのが 59% であったが、授業後は 95% に改善した。

設問2 未治療の HIV 感染者との行為で、HIV に感染するリスクがあるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



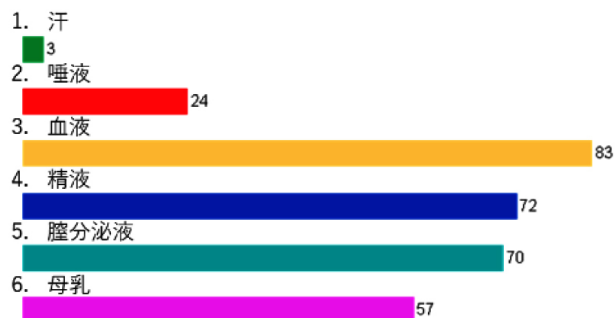
・授業後



正解「3,8,0」を回答したのは授業前が11%であったのに対して授業後は33%であった。

設問3 未治療のHIV感染者の体液で、HIVが感染する可能性のあるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



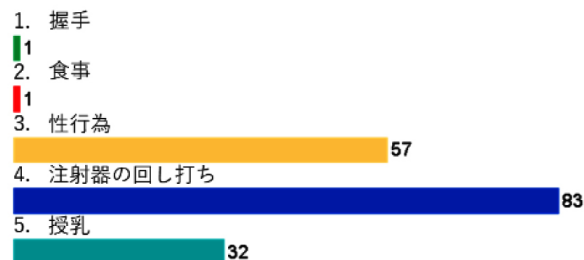
・授業後



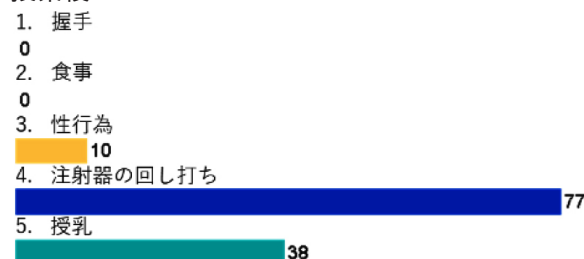
正解「3,4,5,6」を回答したのは授業前が38%であったのに対して授業後は84%であった。

設問4 治療状況が良好なHIV感染者との行為で、HIVに感染するリスクがあるものを選んでください。(複数回答可)

・授業前



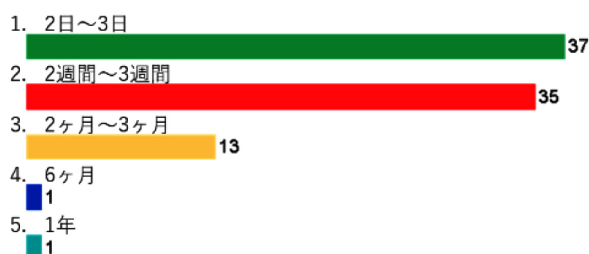
・授業後



正解「4,5」を回答したのは授業前が5.9%であったのに対して授業後は31%であった。

設問5 大阪府でHIVの新規に感染者(およびAIDS患者)の報告数はおよそ【 】に1件である。【 】内に当てはまるものを1つだけ選びなさい。

・授業前



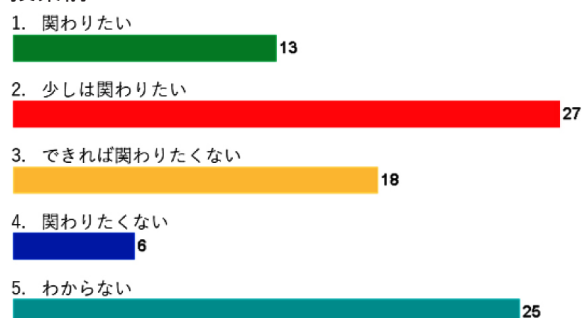
・授業後



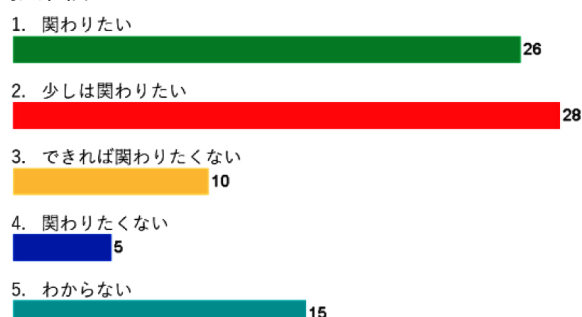
正解「1」を回答したのは授業前が43%であったのに対して授業後は71%であった。

設問6 あなたが将来医師になったとき、HIV感染者の診療に関わろうと思いますか。1つ選びなさい。

・授業前



・授業後



肯定的回答「1. 関わりたい」あるいは「2. 少し関わりたい」は授業前 45%であったのに対して授業後は 64%であった。

考 察

大阪大学医学部の1年次、4年次、6年次を対象としてHIV教育プログラムを実施した。アンケート結果について以下に考察する。

1) 意識調査

設問1 エイズに対する疾患イメージでは、正解である「どれにも当てはまらず、不治の特別な病だとは思っていない」を回答した割合は1年次26%、4年次51%、6年次59%と、医学教育の深度に応じて高まる傾向にあり、現在の医学教育はエイズに対する正しいイメージを獲得するのに一定の効果を示していることが示唆された。

一方、「エイズが死に至る病気である」の回答率は1年次54%、4年次24%、6年次35%であり、平成30年内閣府世論調査における回答率52.1%と同等であることから、医学教育を受けてもなお間違えた疾患イメージを持ち続ける学生が存在していることが示唆された。

2) 理解度調査

いずれの学年においても、白阪琢磨による授業はエイズに対する疾患イメージを是正し、感染リスクに対する正しい理解をもたらした。本授業はHIVに関する啓発活動として大きな成果を挙げたと考えら

れる。

3) 意識変容調査

「あなたが将来医師になったとき、HIV感染者の診療に関わろうと思いますか。」について、いずれの学年においても授業後に肯定的回答（「関わりたい」「少しは関わりたい」）は増加した。本授業はHIV診療に関わろうという意識変容を医学生に導いたことが示唆される。

パンデミックも過ぎて感染対策としての分割授業を実施することなく初めてフル規格での授業とアンケートを実施することが出来た。フル規格のアンケートとしては単年度の解析であり、複数年度で授業およびアンケートを実施して研究の制度を高めることが今後の課題である。

本教育の特色は複数の学年で実施するスパイラル教育である。1年次医学序説の学生が3年後の4年次臨床導入実習においてどのようなアンケート回答をもたらすか、4年次臨床導入実習の学生が2年後の6年次臨床導入実習においてどのようなアンケート回答をもたらすか、スパイラル教育の効果も検証すべきである。

結 論

大阪大学医学部1年次、4年次、6年次学生を対象としたHIV教育プログラムを実施した。アンケート結果からは、いずれの学年においてもエイズに対する疾患イメージを是正し、感染リスクに対する正しい理解をもたらし、HIV診療に関わろうという意識変容を医学生に導いたことが示唆された。

健康危険情報

該当なし

研究発表

- ・ 2023年7月29日（土）第55回日本医学教育学会大会
- ・ 2023年12月4日（月）第37回日本エイズ学会学術集会・総会

知的財産権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし